

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。今回は、東京都美術館の収蔵品である野外彫刻を活用した取り組みについて紹介します。

The Museum offers Art and Communication projects designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we look at programs giving application to outdoor sculptures in the Museum's collection.

野外彫刻から広がる鑑賞の場づくり

Using outdoor sculptures to expand opportunities for art appreciation



とびらプロジェクトとは、美術館を拠点にアートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトです。都美を拠点に東京藝術大学と連携して行い、一般公募されたアート・コミュニケータ（愛称：とびラー）が、学芸員、大学教員らと共に活動しています。

Tobira Project is a social design project to foster community through art, with the art museum as a base. In cooperation with Tokyo University of the Arts, art communicators (called Tobira) selected from the general public undertake museum-based activities in collaboration with curators and university faculty.

野外彫刻とは？

What is outdoor sculpture?

東京都美術館の正門から美術館内に向かう屋外広場（エスplanナード）には、10点の彫刻作品を常時展示しています。

10 works of sculpture are permanently displayed on the Esplanade from the Main Gate to the Museum Entrance.

いろいろな視点で野外彫刻を楽しもう！

Enjoy seeing outdoor sculptures from many perspectives!

東京都美術館には、10点の野外彫刻があることをご存じですか？アート・コミュニケータ（とびラー）の活動では、これらの彫刻作品を様々な方と鑑賞する機会を大切にしています。2024年秋に開催した「東京都美術館の野外彫刻を楽しむ」は、とびラーが発案・企画したプログラムです。「彫刻鑑賞って難しそう」と身構えてしまう方でも、よく見て考える体験を通して、彫刻に親しんでもらうことを目的に実施しました。2回の開催に小学生から大人まで、計25名が参加しました。

当日は自己紹介をした後、小さな木や石で立体をつくるゲームから活動がスタート。お互いの作ったものを観察すると、思いがけない発想が生まれて、いつのまにか全員が笑顔で会話していました。その後は4～5人のグループに分かれて、館内にある3つの野外彫刻をじっくり鑑賞します。改めて見てみると、シンプルな印象の作品でも、複雑なかたちをしていることに気がつきます。「なぜこのかたちなんだろう？」「今日の天気ではこうみえるけど…」「実はこんな表現なのかも！」と、新しい発見や解釈が自然と重なり、2時間のプログラムが終わる頃には「もっといろんな彫刻に注目したい！」



「東京都美術館の野外彫刻を楽しむ」実施の様子 Scene of "Enjoying the Tokyo Metropolitan Art Museum's Outdoor Sculptures"
井上武吉《my sky hole 85-2 光と影》1985年／堀内正和《三つの立方体 A》1978年／最上壽之《イロハニホトチリヌルヲワカヨタレンソツネ・・・ン》1979年



と目を輝かせる参加者の姿がありました。

このほかにも、とびラーは学校の授業で訪れる子どもたちと一緒に鑑賞したり、建築ツアーのなかで建物とあわせて紹介したりするなど、様々な場面で野外彫刻に親しんでいます。同じ作品でも、学びの目的や出会う人が違うことで、新しい鑑賞体験へと展開し続けるのです。

また、これらの野外彫刻は、年に1回ほど、専門家の指導のもとで学芸員やとびラーが力

を合わせて洗浄を行っています。1日がかりの大仕事ですが、洗うプロセスにも学びがあり、素材の特性や保存方法にも理解を深めながらメンテナンスをしています。

その日の天候や、景観との調和を楽しめるのも、野外彫刻のおもしろいところです。展示会の行き帰り、ぜひ足を止めてお気に入りの1点を探してみてくださいね。

（東京都美術館 学芸員 峰岸優香）



野外彫刻洗浄の様子 Scene of washing an outdoor sculpture
五十嵐晴夫《メビウスの立方体》1978年
井上武吉《Plus and Minus No.55》1975年

東京都美術館の野外彫刻マップ
<https://www.tobikan.jp/archives/collection.html>

Tokyo Metropolitan Art Museum's Outdoor Sculptures and Reliefs Map
<https://www.tobikan.jp/en/archives/collection.html>



The activities of the art communicators (Tobira) include programs for appreciating the Museum's outdoor sculptures with others. "Enjoying the Tokyo Metropolitan Art Museum's Outdoor Sculptures" held in fall 2024 was such a program conceived and planned by the Tobira. It sought to familiarize participants with sculpture by giving them experiences of closely viewing and thinking about actual sculptures. The program was held twice with a total 25 people participating. Both children and adults enjoyed two hours of viewing the sculptures while holding dialogue.

These outdoor sculptures are cleaned under the guidance of experts about once a year. Curators and Tobira maintain the sculptures while striving to deepen their understanding of their materials and how to preserve them. When visiting the Tokyo Metropolitan Art Museum, try to discover your favorite outdoor sculpture.

(MINEGISHI Yuka, Curator, Learning and Public Projects)